

団体名	NPO法人維新隊ユネスコクラブ		活動タイトル	食事つき無料自習室「STUDY CAMP」の運営事業					
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）				■ 活動風景					
<p>●地域の望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>当団体が望む社会状況とは、生まれ育った家庭や学校の環境によって、学習や進学が損なわれない社会の実現である。そのために、</p> <p>①学校の授業が理解できないが家庭の低所得によって塾通いができず分からないまま ②家庭内が落ち着かずテストや受験の勉強ができないことにより希望する進路にチャレンジする機会が得られない ③不登校で学習の場が得られず、学力が低いまま進学が困難になっている</p> <p>といった困難な状況を打破し、チャレンジする機会を平等に得られる社会にしていこうとすることである。</p>			<p>■ 活動風景</p> <p>自習室の様子① 友達と一緒に来室して自習をしている。</p> 					
<p>●団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>当団体の社会的役割は「困難な学校・家庭環境にある子どもたちを学習面で支え、希望する進路に挑戦する機会が得られるよう支援する」ことである。取り組みは以下のとおり。</p> <p>①無料塾「ステップアップ塾」で学習指導を行い、自立した学習者になるよう指導する場の運営 ②無料自習室「STUDY CAMP」を開催し、家に学習環境がない子どもへの自習の場の提供 ③①②を利用する子ども達への軽食の提供と、保護者へのフードバンクの紹介</p>								
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●人的資源：学生講師ボランティア100名以上／運営スタッフ8名／広報チーム5名／事務スタッフ3名／保健士スタッフ2名／支援情報担当者2名 ●物的資源：自習室（塾教室）／食材支援団体及びそのネットワーク／無料教材／教材印刷協力／文房具等の高贈ネットワーク ●活動資金：賛助会費で管理費を、個人会費＋パートナー会費＋自主事業収入＋寄付で事業費を賄う状態 ●ナレッジ： ①運営ノウハウ：新設マニュアルとスタッフマニュアル・育成プログラムの作成と定期的な更新 ②支援情報：食事・雇用・奨学金など受益者向け情報の随時発信</p>								
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況（まとめ）							
<p>◆無料自習室STUDY CAMPの運営 自宅に自室や学習机など学習環境がない等の困難を抱える小学生～高校生に向けて、都内二か所で食事や教材・コピー機等がある無料の自習室を平日夜に毎日開催し、学習の場と居場所の提供を行った。</p> <p>◆利用者への支援情報の提供 子ども食堂の情報・フードパントリー情報・奨学金の情報など支援情報を集め、毎月更新して自習室内の掲示板での紹介やメールでの情報発信を行った。奨学金情報よりも食支援についての情報利用者が多く見られた。</p> <p>◆利用者の拡充 広報チームを結成し、毎週の会議を通じて5つの企画（近隣校への周知、無料英会話レッスンキャンペーン、食品配布を伴う内覧会、町内ポスター貼り企画）を実施したが、利用者拡充への効果は予想より小さかったため、今後も継続的に広報会議を行い、これまでの取り組みの検証を通じて更に効果的な広報活動を企画、実施していく。</p>		<p>◆無料自習室STUDY CAMPの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間開催数：西新宿224回、新江古田219回 ・利用者数：のべ456人 利用登録者数：126人／常連利用者9人（登録者の7.1%） →常連利用者の割合目標は達成しているものの、絶対数が少ない状況。 アンケート回答者（全体の30.9%）中58.9%が成績や受験に良い影響があったと回答。 ◆利用者への支援情報の提供 <ul style="list-style-type: none"> 食支援：103世帯中13世帯（12.6%）が利用したと回答 奨学金：103世帯中4世帯（3.8%）が利用、9世帯が利用検討中と回答 →レベル2は達成したが、目標（1回以上の利用者が15%以上）には達していない ◆利用者の拡充 西新宿B.Oの登録者数：77名／新江古田B.Oの登録者数：49名 →レベル1は達成したが、目標であるレベル2は達成できなかった。 ◆活動基盤強化 <ul style="list-style-type: none"> ①賛助会員数：新規3社2名増加（合計37社・名） ②パートナー会員：マニュアル作成と新規開室が進行中（増加なし） 			<p>自習室の様子② ホワイトボードの支援情報をチェックしている利用者</p> 				
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題			■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）				
<p>◆利用者とその保護者向けのアンケートから、自習室の気に入っている点や改善要求を把握することができたので、今後の運営に役立てていく。</p> <p>◆支援情報については、当初の予想より利用者及び保護者が目を通していない割合が多いことが分かり、掲出方法や配信方法に改善が必要であることが理解できた。同時に情報を見ている層からのニーズを把握することができた。</p> <p>◆他団体が実施する自習室の様子を見て、マニュアルの改善点を見出すことができた。同時に、開催規模や運営主体によってマニュアルを段階的に構築しておく必要があることが理解できたので、今後のマニュアル見直しに役立てていく。</p> <p>◆広報においては、オンライン・オフラインの両方の広報展開によってその効果の現れ方を検証することができたので今後役に立てていくと共に、利用者となるターゲット層の生活の様子に合わせた方法を深掘りする必要がある。</p>		<p>今回のコロナ禍での無料自習室の開催を通じて、以下の課題を見出すことができた。</p> <p>①ターゲット層への情報のリーチ：ターゲット層の中でも学校・家庭の両方から距離を置いている子どもに対し、どのようなアプローチが可能か、再検討する必要がある。</p> <p>②登録を済ませた利用者が最初に足を運ぶまでに時間がかかる様子が見受けられる。アンケート結果から利用者目線での周知方法を検討する必要がある。</p> <p>③利用を開始した利用者が定期的な利用者になるために、学習意欲を維持し続ける仕掛けが必要である。意欲の維持向上のための仕掛けを2022年度に開始している。</p> <p>④協働を申し出る個人・団体が増えたことから、小規模な教室を全国に展開する必要性を感じている。そのために、希望する人が着手しやすい印象になるマニュアル内容を再構築し、参画団体を増やすことで基盤強化につなげることが課題として見えている。</p> <p>⑤日本社会を覆う営利塾への過度な依存心をいかに取り除き、落ち着ける学習環境と自習の重要性を理解させるか、社会的な啓発が必要であると感じている。</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>23名の小中学生の学力向上と、16世帯の食支援と奨学金情報活用を</p>	<p>を達成しました。</p>		
					■ 受益者の具体的な変化（自由記入）				
					<p>・利用者アンケートで、回答者（全体の30.9%）中58.9%が成績や受験に良い影響があったと回答 ・利用者の保護者向けアンケートでは、「高校進学にあたり奨学金を利用した」「食事支援の情報があって助かった」との意見が寄せられた。</p>				